

令和元年度第1回香芝市都市経営市民会議 議事要旨

開催日時	令和元年8月22日(木) 午前10時00分～12時00分
場 所	香芝市役所 本庁舎 3階 第1会議室
出席者	平越副会長、芦高委員、石原田委員、井上委員、植田委員、小川委員、沖本委員、粕井委員、北川委員、小西委員、清水委員、中村委員、萩原委員、吉村委員 (計14名)
欠席者	中川委員(計1名)
事務局	堀本企画部長、遠藤企画部理事、津崎地域振興局長(議題1について)、足立企画政策課長、宮崎企画政策課主幹、吉谷企画政策課主査
議 題	1. 「地方創生推進交付金」効果検証について 2. 「第5次香芝市総合計画」策定について(市民意識調査) 3. 「香芝市まち・ひと・しごと創生総合戦略」進捗状況について

会長・副会長の選出

委員の互選により選出(会長：中川委員、副会長：平越委員)

各議題について

1. 「地方創生推進交付金」効果検証について

平成30年度に地方創生推進交付金を活用して実施した2事業について、津崎地域振興局長から概要を報告し、外部有識者による効果検証として、総合戦略のKPI達成に有効であったか、各事業の評価を実施するもの。

<最終評価結果>

No.1 万葉ロマンの地を巡る観光ルート整備事業

……………総合戦略のKPI達成に有効であった

No.2 地域ブランド力を活かしたシティプロモーション事業

……………総合戦略のKPI達成に有効であった

<意見及び質疑>

- 「万葉ロマンの地を巡る観光ルート整備事業」について、目的に“消費拡大へつなげる”とあるが、どうつなげていくのか。

→(事務局)4市町共同でウォークイベント等を実施する際に、会場で各地域の地場製品の展示・販売を行う、また参加者に地域の店舗を回ってもらう等の取り組みを進めていく予定。また、地域の店舗も巻き込み、協力を得ていくことで、さらなる事業拡大にもつながると考えている。

こういった取り組みを進めることによって、消費拡大へつなげていくことを検討している。

：ウォークイベントとは。

→(事務局)昨年度は、4市町共同で「ウォーキングモデルツアー」を開催したほか、香芝市単独で「香芝ウォーク」も開催した。

今後は、昨年度に作成した「大奈ウォーク公式ガイドマップ」をもとに、引き続き4市町共同でウォークイベントを開催していく予定である。

またマップを活用して、個人でも自由に散策していただけるような事業展開、

例えばスタンプラリーなどを用意し地域の店舗を自由に回ってもらえるように設定することなどを検討している。

- 「万葉ロマンの地を巡る観光ルート整備事業」の KPI である「香芝に魅力を感じる人の割合」は、どのイベント時のアンケートか。
 - （事務局）「ウォーキングモデルツアー」と「香芝ウォーク」の両イベントで参加者に対してアンケートを実施し、合算した数値である。
 - ：具体的にどのようなところに魅力を感じているかの分析はあるか。
 - （事務局）「ウォーキングモデルツアー」でのアンケートでは、「知らないところを巡ることができてよかった」「いろいろな地場産品を知ることができてよかった」などの意見があがっていた。
 - 4市町で共同実施することで、新たな魅力発見につながり、一定の成果はあったのではないかと考えている。
- 参加者に魅力を感じたところの写真を撮っていただき、インスタグラムにアップしていただくのはどうか。紙のアンケートだけでは捉えきれない、参加者が感じた魅力を発見できるのではないかと思う。
 - （事務局）今、ご提案いただいた内容について、4市町で検討しているところである。自由に散策してもらい写真を投稿していただけるようにしたいと考えている。
- 他の事業との連携ができていない。例えば、各事業で作成したパンフレットも連動しておらず、「大奈ウォーク公式ガイドマップ」にどんづる峯の詳細情報を掲載できないのであれば、『詳しくは「KASHIBA+カタログ」をご覧ください』というように、誘導するような一文を掲載しておいた方がよかった。
 - （事務局）それぞれでパンフレットを作成したため、連動させるという観点が足りなかったと思う。今後は工夫するようにしていきたい。

2. 「第5次香芝市総合計画」策定について（市民意識調査）

＜策定方針について＞

- 課題解決型だけではなく、香芝市の今ある強みやいいところをさらに伸ばしていくという前向きな視点も計画に組み込んでいただきたい。
 - （事務局）行政の計画は、どうしても課題解決型の発想に偏りがちである。ご指摘いただいたとおり、両面捉えた計画となるようにしたい。
- 総合計画に総合戦略を統合すると、国の総合戦略の計画期間とずれるのではないか。
 - （事務局）総合戦略部分は国の計画期間とずれることになるが、計画内容が国に沿ったものであれば、計画期間にずれが生じても構わないというのが国の見解であり、問題ないと考えている。
- 前回の計画策定時には、市民からメンバーを募り、ワークショップを開催していたはずだが、今回はその予定はないのか。
 - めざす将来像「笑顔と元気!!住むなら かしば」のキャッチコピーもこのワークショップから生まれたものであったが、今回はどのように決定していくのか。
 - （事務局）今回は、ワークショップではなく、タウンミーティングにより市民の方からご意見をいただこうと考えている。
 - キャッチコピーは、基となるキーワードをこのアンケートで募集したうえで調整していくことを検討中である。
- 庁内体制の一つとして「課長級以下会議」とあるが、ぜひ若手職員が参加するようにしてほ

しい。まちの未来について協議するワーキングチームという位置付けなのであれば、その場で若手職員がしっかり議論することが大切であると思う。

→（事務局）ご指摘いただいた方針で進めていきたい。

<市民意識調査について>

- アンケートは郵送実施となっているが、若い年齢層の方の意見を聞くには、インターネット等の別の実施方法を考えた方がよいのではないか。

- アンケートの分量が多過ぎる。自分に関係しない設問は見ない可能性も出てくるため、回答してもらいやすいように、もう少し工夫の余地があるのではないか。

→（事務局）今回ご提示させていただいている実施方法・アンケート内容は、前回をもとにしたものである。

市としては、前回の計画策定時にいただいた回答内容と今回の回答内容を比較することで、市民の意向がどのように変化したのかを把握したいと考えている。そのためには、できるだけ同じ方法で実施する必要があるため、今回は抜本的に変えるのではなく、出来るだけ前回と同じ手法で実施したいと考えている。

- アンケートの回収率を60%に設定しているが、達成するための具体的な対策はあるのか。

→（事務局）先ほども若い年齢層からの回収率をあげる方法としてご意見いただいたインターネット回答について検討したが、重複回答を防ぎたかったことから、断念した。

具体的な対策としては、フェイスブックや市ホームページなどによる協力の呼びかけを予定している。

また、属性に関わる設問を最後に置き、回答しやすい調査票の流れとなるよう工夫を施した。

：回答に協力いただいた方に、抽選で香芝の地場産品を送るというのはどうか。

→（事務局）送るには、個人の名前と住所が必要となり、無記名回答であることと矛盾が生じるため、断念した。回収率は上げたいが、率直な意見をいただきたいために、無記名回答であることを優先させた。

今後、検討の余地があると感じている。

- インターネット回答であれば、個人の名前と住所を把握しなくても地場産品を送る方法があるのではないか。例えば、回答があった際に、折り返しの連絡を入れておき、地場産品を取りに来る、来ないは本人に任せるなど。

また、聞きなれない用語が出てくるため、調べることができるサイト及び誘導ツールがほしい。10代の方には答えづらいのではないかと感じた。自分で調べてもらうことで、市に関心を持つきっかけとなる効果もあるのではないかと思う。

→（事務局）前回の調査結果と比較するため、出来るだけ聞き方・表現を変えずに作成したが、ご提案いただいたとおり、市ホームページ内に検索できるページを準備する、もしくは脚注を付けるなど、検討する。

- 回収率を上げるには、アンケートの説明会の開催、質問できる時間と場所を設けるなど、市側から「回答を求めている」という積極的な働きかけが必要なのではないか。サンプル数はどのくらいあれば、意見収集の精度として問題ないのか。

→（事務局）必要なサンプル数として、400から600程度あれば、香芝市の全体傾向を把握するという意味で統計的に問題ない。

- 問9の「社会経済情勢の中で限られた財源で」というワードは行政側の視点だと思うため、表現を変えた方が答えやすいのではないか。

問17の「どのようなまちになってほしいですか」は、「どのようなまちにしたいですか」という能動的な聞き方がよいのではないかと。

問26の「未婚の方も今のお考えでお答えください」という表現は、将来、結婚して子どもを持つことが前提となっているのではないかと。

→（事務局）問9については、行政として全て実施すべき内容であるため、その中でも”特に”の部分を考えていただきたいという意図であったが、再検討する。

その他については、ご指摘いただいたとおりであるため、修正する。

- 対象者の抽出は世代間バランスに配慮しているのか。回収率を上げるため、督促状を送付するなどのアクションを起こしてはどうか。

→（事務局）世代間バランスを考慮して抽出する予定である。督促状の送付は、前回は実施したが、今回は費用対効果を考慮し実施しない方針。

：インターネットによる調査を今回は実施しないにしても、トライアルで一部実施し、次へ繋げてはどうか。このままだと、次回も郵送のみで実施されるのではないかと。

→（事務局）ICT担当課にも相談し、検討する。

3. 「香芝市まち・ひと・しごと創生総合戦略」進捗状況について

今年度の実施計画について報告。

今年度の実績は、年度末に改めて進捗の報告を行う旨、説明。

4. その他

連絡事項を伝達

以上